

11章 オープンソースの文化

11.1 オープンソースの概念とライセンス

11.1.1 オープンソースとは

- LinuxはOSS(オープンソースウェア)
- Linuxカーネルのソースは、ビルドすることによりカーネルイメージファイルが出力され、システム起動時に読み込ませる
- mainline
 - mainlineのソースをメンテナーがテストしたものがstable(安定版)

OSS

- 著作権
- 無保証
- 開発継続性

11.1.2 主なOSSライセンス

- GPL (GNU General Public License)
 - コピーレフト
 - 再配布するソフトも公開させる
 - 商用利用が困難
 - LGPL
 - ライブラリ用ライセンス。(コピーレフトを弱める)
 - AGPL
 - GPLよりもさらにコピーレフトを強めたもの
 - Webサービスなどネットワーク経由で利用するユーザに対してもソースの公開を求める
 - GPLの最新バージョンは、GPLv3
 - 特許権の扱いが特徴
- MPL
 - MPLによって提供されたOSS部分に限定したコピーレフト
- BSD系
 - 非コピーレフト
 - MTライセンス
 - Apache License
- パブリックドメインソフトウェア
- マルチライセンス

分類	コピー/ 再配布	改 変	改変含ソ ース公開	ほかのコード と組合公開	例	ソフト
----	-------------	--------	--------------	-----------------	---	-----

分類	コピー/ 再配布	改 変	改変含ソ ース公開	ほかのコード と組合公開	例	ソフト
コピーレ フト	可能	可 能	必要	GPL/AGPL	Linux/GNU系	
準コピー レフト	可能	可 能	必要	不要	LGPL/MPL	glibc
非コピー レフト	可能	可 能	不要	不要	BSD License/MIT License/Apache License	FreeBSD/X Window System

11.2 オープンソースのコミュニティとエコシステム

11.2.1 オープンソースコミュニティ

- オープンソースコミュニティ
 - リーダー
 - ソフトウェアの機能やリリースについて最終決定を行う
 - メンテナー
 - リーダーからソースコードのメンテナンスを委任される担当者。コミッターの代表
 - コミッター
 - ソフトウェア開発用のリポジトリにコミットをする権限を有する。
 - コントリビューター
 - 何らかの貢献をしている人
- フォーク
 - 派生
 - MySQL 5.5のタイミングでMariaDBが開発された
 - MySQLをフォークして、MariaDBの開発プロジェクトが立ち上げられた
- GNUプロジェクト
 - GNUプロジェクト（グヌープロジェクト）は、フリー（自由）なオペレーティングシステムを開発する目的で、当時MITにいたリチャード・ストールマン（フリーソフトウェア財団の創設者）によって立ち上げられました。

11.2.2 オープンソースエコシステム

- 共栄共存

オープンソースとフリーソフトウェア

- FOSS（Free/Open Source Software）
 - フリーソフトウェアとは、ソフトウェアの利用・改変・配布などが自由に行えるソフトウェアのことです。
- FLOSS（Free/Libre and Open Source Software）
 - オープンソースとは、プログラムのソースコードを公開し、誰でも自由にソフトウェアの改良や再配布（再頒布）をすることができるという考え方です。非営利組織のOSI(Open Source

Initiative)がまとめたオープンソースの定義を満たすソフトウェアがオープンソースソフトウェア（OSS）です。

- パブリックドメイン
 - 著作物に対して著作権や特許権などの知的財産権が発生していない状態、または失効した状態のことなので、誤りです。
- コピーレフト
 - コピーレフトは「著作物の利用やコピー・再配布、改変を制限しない」など著作権に対する考え方なので、誤りです。
- シェアウェア
 - 有償のソフトウェアのことなので、誤りです。
- プロプライエタリソフトウェア
 - プログラムやソースコードに対して、秘密保持契約の締結や利用料の支払いが必要など、利用に関する制限がかけられているもの